

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 8月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	2073100220		
法人名	医療法人あさま会		
事業所名	グループホームサンタクロース		
所在地	長野県埴科郡坂城町坂城6986-1 (電 話) 0268-81-3611		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成19年8月23日	評価確定日	平成19年11月13日

【情報提供票より】（平成19年 8月15日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	1ユニット平成19年 3月16日、1ユニット平成19年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤13人、非常勤2人、常勤換算14.35人	

（2）建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	2階建ての	1 ～ 2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	76,000 円	その他の経費（月額）	21,000 円
敷 金	有（ 円） 無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（200,000円） 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 850 円		

（4）利用者の概要（平成19年 8月15日現在 ）

利用者人数	12 名	男性	2 名	女性	10 名
要介護 1	1	要介護 2	3		
要介護 3	4	要介護 4	2		
要介護 5	2	要支援 2			
年齢	平均 81.3 歳	最低 74 歳	最高	89 歳	

（5）協力医療機関

協力医療機関名	・リサーチパーククリニック ・宮原歯科医院				
---------	-----------------------	--	--	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大河ドラマで話題の風林火山の武将、村上義清の菩提寺・満泉寺がある坂城町にホームがある。平成18年3月に1ユニット目、9月に2ユニット目が開設されたばかりの新しいホームである。管理者は他のグループホームでの管理経験を積んでおり、まだ歩き出したばかりのホームでもあることから、課題が多くあることを十分認識し、解決に向けて職員と共に取り組んでいる。短期間のうちに入居者の病気などを経験した結果、管理者・職員は肩ひじを張らず、入居者のありのままを受け入れ、共に生活して行こうとしている。日々の支援も入居者中心に、寄り添っての生活援助がされている。若葉マークが外れる来年にはあらゆる面でもっと成長されているのではないだろうかと期待が膨らむ。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	今回が初めての外部評価であった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 管理者は他のグループホーム管理経験者であり、多くの経験を積んでいる。他の職員は運営開始後1年くらいの経験なので、現在は毎日の生活に追われている状況である。自己評価より毎日の利用者の生活を築くことが先決となっている状態である。外部評価で自分たちの見えていない部分などの指摘を期待している。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	管理者による構想は出来ているものの、町役場への連絡・相談までの進捗状況であり、早急に「運営推進会議」発足を願う。「やらなければいけないこと」・「やりたい事」等沢山掲げていると思われるが、ひとつひとつ急がずにこなしていただきたい。
重点項目 ③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	離れて暮らす家族にとっては、ホームよりの便りが近況を知る一番の手がかりとなり、また安心にもつながるものと思われる。毎日訪問される家族もいるが、それが出来ない家族も多いので、月に一回は家族のもとへ入居者の近況報告をしていただきたい。「要望・苦情処理箱」等の設置をすることで、家族・地域住民の声も聞かれるかと思われる。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	道路を挟んだ高校の生徒のボランティアの受け入れ、町役場よりの緊急なショート・デイ利用の依頼などがあり、地域との関係も少しずつ築かれてきている。入居者が地域行事に参加できる体制作りもお願いしたい。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念は作成されているが、グループホーム独自の理念は作成されていない。現在は、法人の理念にのっとり「入居者が何を考え何を求めているか」を第一に考えてサービスを行っている。	○	地域密着型となったことからグループホーム独自の理念を作り掲げることで管理者・職員の意識の統一が図れると思われる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の入職時に法人理念の説明をしている。月一回のユニットごとの定例会議でも説明している。法人理念を個人の言葉に置き換え解釈している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	18年3月に1ユニット目がスタート、9月に2ユニット目がスタート。地区の自治会に入っ、区費の納入をしている。道路を挟んだ高校から、夏休みの間、高校生のボランティアを1週間ほど受け入れた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットのリーダーの意見を管理者がまとめている。開設間もないということ、職員の退職、入居者の入院・退院などが重なり職員に余裕がないことから、リーダーの意見にとどめている。外部評価結果が出たらそれを参考にしたいと考えている職員が多かった。		

グループホーム サンタクロース

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場までは連絡が取れ委員も決めているが、その先が未定である。家族会もないので、委員に家族の方が入ることで家族の意見も聞きやすくなるものと思われる。	○	管理者自身がグループホームの理想像を持っていることから、それに到達するためにも早急に「運営推進会議」の発足と開催運営をお願いしたい。地域の代表者からの提案事項もあると思われ、ホームが地域とともに歩むことが出来るものと思われる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議立ち上げの件で月に一回程度相談に伺っている。スタッフ募集を町の有線を利用している。役場より「冠婚葬祭」や「家族が体調が悪い」ということで依頼があり、宿泊や半日利用という事例もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書・領収書は、月に一回送付している。	○	「便り」の発行を管理者が予定している。入居者の担当職員が決まっていることから、月一回の送付の際に担当職員の言葉で近況の報告をしてみてもどうか。職員の、利用者への観察力も変わるものと思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はまだつくられていない。訪問された家族の方から「玄関にイスを置いたらどうか」と直接提案され、実行した経緯がある。	○	より多くの家族の方のご意見などを聞きやすいように、玄関に「要望・苦情処理箱」等の設置を期待いたします。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の固定することが入居者にとって良いことと理解しているが、職員の人数と1・2Fの入居者の介護の状況が大きく変わったことから、ユニット間でのやり繰りをしている。		

グループホーム サンタクロース

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	18年度は外部の「生活支援講座」を全員で受講している。今年度は、隣の市の病院開催の医療・介護の勉強会に参加の予定をしている。管理者が独自に施設内での勉強会も計画中である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の中には、他の施設経験者も居るが、他グループホームとの交流などは行われていない。	○	職員の中にも他のグループホームを見てみたいという意見もある。他のグループホームを見ることは、色々な場面でプラスになると思われるので実現していただきたい。地域のホームとのネットワーク作りも期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族よりの相談を受けてから入居希望者と家族の方に訪問していただき、ホームの見学をしていただいている。職員もその時観察をするようにしている。日中や宿泊しての体験も可能であることを伝えており、現在、日中1件、宿泊1件の体験受け入れがある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は働いている時に入居者の方の優しい笑顔と感謝の気持ちを感じ、ますます仕事に対して情熱がわいてくると伺った。男性職員などは調理をする時に、入居者の方々に切り方・調理の方法などを教えてもらっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活暦の聞き取りをされているが、2種類の「フェイスシート」が作成されており、少しわかりにくい点がある。	○	新しく職員が入ることを考えても、現在書かれている「フェイスシート」の内容を1種類にまとめ、もう少し掘り下げて生活暦を書き出してはどうだろうか。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に、入居者・家族の希望を聞いて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一回の見直しをしている。介護計画に変更があった場合は、家族が訪問された時に説明し、サインをもらっている。電話での近況報告も行っている。来訪できない家族宛に、特に送ること等はしていない。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体であるクリニックで受診する時、優先してもらおう事もある。日曜日でも往診を頼める。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は原則として家族の付き添いをお願いしているが、場合によっては職員も同行して現状の説明などを行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療に関した場合は医療機関へお願いするが、介護の場合の重度化は家族と話し合いで見ていきたいと伺った。現在介護度の高い方もおり、全介助にて生活をされている。食事も他の入居者と同じものを刻み食にて食べられており、皮膚科の先生にも往診で手当てをしていただく場合もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書に「秘密保持」が記載されており、説明もされている。職員には会議等で周知徹底している。トイレなどの誘導の時も耳元で話しかけていた。「・・・して下さいますか」と言う声かけがされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが、日中の行事などは流動的である。日によって、レクリエーションを入れたりしている。起床時間も3時ごろの方もいたり色々だが、職員は入居者に合わせた生活をしている。		

グループホーム サンタクロース

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット毎に献立を作成しているが、入居者の希望で内容を変更する事もある。朝・昼・夜と職員は同じものを一緒に食べている。車椅子の方に入居者の方がお盆で運んであげているのが訪問日に見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきの入浴としているが、利用者の要望でシャワー浴に切り替えたりもしている。ゆくゆくは、夜の入浴の希望があればそれも受け入れたいと伺った。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「雑巾ぐらい縫えるかな?」という利用者の会話を聞き、タオルと針を用意して縫っていただくこともある。隣の市での花火を見たことを機に、来年は全員の参加で花火をしたいという希望がある。時々レクを取り入れ、折り紙などを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの玄関より眺められる場所に「スーパード」があり、毎日の食材や個人の買い物などに職員とともに出かけている。午後の散歩も行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム全体が警備会社のセキュリティシステムを導入しており、それがご家族にとっても安心の1つとなっている。管理者の判断で日中解除している事もある。		

グループホーム サンタクロース

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	運営規定にも5月、11月に訓練を行うとしている。今年度は4月に消防署の協力を得て訓練を行った。5月にはホーム独自の訓練を実施した。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌に入居者の食事量・水分摂取量等が記録されている。	○	献立は職員が立てているので、一度町役場の栄養士に相談し、栄養バランスをみていただくことも検討されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはサロン風になっており、一人ひとりが好きな場所で過ごせるようになっている。床暖房とクーラーによる冷暖房がされているが、自然の空気の入入れなど、温度調節がされている。居間に時を知らせる時計とカレンダーも置かれているが、時計の位置をもう少し低くしカレンダーの字も大きい方が見やすいと思われる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーが守られる居室となっている。入居者によって表札などの表し方の違いがあり工夫されている。部屋の中には大きめのクローゼットがあるので部屋が広く使え、車椅子生活などになった場合でも安心できる広さがある。		

※  は、重点項目。